

第4代会長挨拶（劉徳強）

2020年10月17日に開かれた中国経済経営学会の理事会において、第4期目の会長を拝命しました。理事や会員の皆様のご支持と信頼に感謝し、微力ながら本学会の発展のために努力させていただきたく存じます。

本学会は、2014年に中国経済学会と中国経営管理学会が統合し、中国経済経営学会として再スタートしてから、歴代の会長（厳先生、丸川先生、高橋先生）と理事の方々のご尽力により、そして、会員の皆様方のご努力によって、大きく成長しました。とりわけ、研究レベルの向上が目覚ましく、日本内外での影響力が高まってきました。この場を借りて、これまでに本学会の発展に貢献したすべての方々に感謝の意を表したいと思います。

中国経済経営学会はこれまで、全国大会をはじめ、毎年様々な交流イベントが開催されました。会員同士が会場の内外で同じ空間を共有しながら、密度の高い交流をし、それによって、学術的な諸問題に対する理解が深まるだけでなく、人間同士の信頼関係の構築にも大いに寄与しました。しかし、残念なことに、今年は新型コロナウイルスの影響により、本学会の全国大会を初めとする様々なイベントがオンラインで開催せざるをえなくなりました。対面交流のような臨場感が薄くなり、研究コミュニティとしての機能も少なからず影響を受けることになると思われます。しかし、他方、オンライン開催であるがゆえに、より多くの会員がより低いコストで学会活動に参加することができるというメリットがあり、これを生かす余地があります。新型コロナウイルスの影響はしばらく続くと予想されますが、本学会における学術交流の質が低下しないようにしていきたいと考えています。

我々の研究対象である中国は、過去40年に及ぶ改革・開放によって、経済的に大きく成長し、世界第二の経済大国になりました。一部の分野においては、世界の先端を走るところまで進んでいます。しかし、近年における対内、対外政策の目まぐるしい変化からわかるように、中国はこれまでと異なる局面に入ったと考えられます。これまでの中国経済発展の原動力となっている市場化改革と対外開放は続けられるのか、中国に大きな恩恵をもたらしたグローバル化がどうなるのか、さらに、これらが続けられるためにはどのような条件が必要なのか、などなどの問題が突きつけられています。

また、貿易摩擦から始まった米中対立はこの2年間だんだんエスカレートしてきました。貿易戦から技術戦、金融戦にまで進み、新型コロナウイルスが世界中

で蔓延してから、情報戦、外交戦、政治戦にまで発展し、今は軍事衝突の一步手前にまで突き進んでいると言われていています。世界第一と第二の経済大国が本格的に対立するようになれば、世界の政治と経済の秩序が根本から変わることになり、我々のこれまでの中国経済研究や中国企業研究で想定した様々な前提条件が大きく変わってしまうことは言うまでもありません。

このような状況の下で、本学会としては、中国のおかれているこのような複雑な状況を理解するために、可能な限り多くの交流イベントを実施していきたいと考えています。同時に、機関紙『中国経済経営研究』の活性化、会員拡大、若い会員の学会活動への積極的な参加、国際交流の促進、そして、日本国内における中国研究組織との連携強化など、様々な課題に積極的に取り組んでいきたいと考えていますので、会員の皆さんからの惜しまぬご支援とご協力を心待ちにしています。

最後に、新型コロナウイルスが猛威を振るう状況の中で、会員の皆さんにおかれましては、くれぐれも自らの健康と安全に細心の注意をさせていただきますようよろしくお願いいたします。

(2020年11月20日記)